

1. 件 名：原子力規制検査の運用に関する日本原子力研究開発機構（高速増殖原型炉もんじゅ）との面談

2. 日 時：令和3年10月27日（水） 11時15分～12時00分

3. 場 所：日本原子力研究開発機構 高速増殖原型炉もんじゅ 第1会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 検査グループ 検査監督総括課

古金谷課長

原子力規制部 検査グループ 核燃料施設等監視部門

宮坂原子力運転検査官、遠藤係員

原子力規制部 福井地域原子力規制総括調整官事務所

西村地域原子力規制総括調整官

原子力規制部 敦賀原子力規制事務所

白井事務所長

日本原子力研究開発機構

高速増殖原型炉もんじゅ

荒井所長 他13名

5. 要旨

(1) 日本原子力研究開発機構高速増殖原型炉もんじゅ（以下「原子力機構」という。）所長及び職員と原子力規制検査について意見交換を行った。

(2) 原子力機構より、主に以下について意見があった。

- ・総括的な内容として、原子力検査官と良好なコミュニケーションが取れており、技術的な議論を通じて事業者としても検討の幅が広がっていると感じている。また、原子力規制検査を導入したことにより、設置者に一義的な責任があることをより強く意識した上で、議論ができていると感じている。

(3) 原子力規制庁から以下について説明した。

- ・原子力規制検査を導入し、全体としては良い方向に向かっていると感じている。一方で、核物質防護を含め、継続した検査人材の確保については大きな課題であると認識している。

- ・他にも、原子力規制検査の中で着目している点としては、火災、溢水、火山の影響等の共通要因故障がある。特に火災に関しては、最近のトピックスとして、原子力検査官が地元消防と協力してお互いの知見を共有すること等により力量の向上を図る取組を行っているところであり、今後もこういった活動を積極的に行っていきたいと考えている。

6. 配布資料

なし